

## 映画の小箱

緑豊かなアイルランド。  
ダブリンとその郊外の美しい町を舞台に、  
青春の夢が花開く

『サークル・オブ・フレンズ』  
冒険に満ちた青春の旅

金丸弘美=文  
text by Hiromi Kanamaru  
山本道彦=写真  
photograph by Michihiko Yamamoto

青春は未知への旅と似ている。未来に対して、心ときめかせ、夢ふくらませる一方で、同時に不安にさいなまれる。いつも可能性がたくさんあるように思えて、また逆に、自分にはなにもないようにも思える。いつも青春は無垢で繊細で、しかし好奇心と、人それぞれの冒険に満ち、起伏に富んでいる。

この物語の舞台は、一九四九年の、アイルランドの小さな町ノックグレン。美しい石の橋と川とみずみずしい緑の情景を映し出した後、教会での小さな女の洗礼の様子から始まる。深い自然の緑、石を主に使った教会の建築物、全体に濃厚なしっとりとした深い色合いの服を着た人々。景色と建物と人々とが溶け合い、その美しさに、思わずはっとさせられる。全体が深い配色だけに、そこで洗礼を受ける、純白の衣装をまとった女の子たちの、なんと清らかで、美しく初々しく見えることだろう。ここで洗礼を受けた三人の女の子、ベニー（ミニ・ドレイヴァー）、ナン（サフラン・パローズ）、イヴ（ジェラルディン・オウ

ラ）が、主人公だ。三人のうち洋服屋の娘ベニーを中心に、物語は進んでいく。

洗礼の日から八年後の一九五七年、三人はダブリンの大学へと進学することになる。孤児だったイヴは、修道院の手伝いをしながら学校に通う。ベニーは家からのバス通学。ナンはとつとつに引越してきて、すっかり大人びている。三人は、もう大人への曲がり角に立ったのだ。

三人は、勉学よりも、もっぱら恋の相手探しに夢中のような。ベニーがすっかり虜になったのは、ナンが紹介したジャック（クリス・オドネル）という医学生。ジャックは医者のお息子だが、自分の将来を決めかねている。ある日、ベニーはジャックにパーティーに誘われた。喜びをかみしめるベニー。ところが、三人とも誘われていたのだ。それを知ったときのベニーの動揺と、二人になんでもなさそうに取り繕う苦笑いの、なんと微笑ましく可愛いことだろう。

パーティーは恋の始まり。三人は精一杯に着飾って、何度も、鏡を見ては、手で服の中の胸を寄せ、リップスティックを塗り、ドレスアップに余念がない。そのときの三人の変

身ぶりの素敵なこと。恋の幕開けは、かくも女性を美しくさせるのかと思わせるに十分だ。もともとパーティーでは、ベニーにジャックはちつとも近づいてこないばかりか、ほかの女の子と踊っている。さんざん待たされ、しかたなくほかの男の子と踊った後に、もう帰ろうかと思った頃にジャックがやっとやってくる。ベニーはもう、泣かんばかりだ。「どうして誘ってくれないの。ひどい人ね」と言うベニー。

「好きなものは最後にとっておくさ。さあ踊ろう」と、ジャック。

自分の容姿にちよつと不安を抱いているベニーは、「見かけはサイミたいでも、心は繊細なのよ」と、涙ながらに言い返すのだ。こうして二人はやっと踊り始めた。曲は当時はやった『慕情』のテーマ曲である。ベニーは初めてのキスを、それも憧れの人とした。その翌日のバス通学で、窓外の風に吹かれながら、ベニーはまぶたを閉じて微笑むのである。

とはいえベニーの恋は一筋縄にはいかない。両親の営む洋品店の住み込みの好きでもないショーンに言い寄られるし、最大のショック

は、ナンとジャックが一時は恋仲になったと噂される事件である。

もつとも、それはベニーもジャックも思春期の過渡期の中で、初めての恋に戸惑い、自分が自分を決めかね相手に対してどう対応しているのかも、まだ知りえていないからなのだ。やがて二人は、事件を経ることによって、お互いに自分たちの存在を改めて必要と感じ始めるのである。その二人の行き違い、恋の芽生えが、とても清々しい。そして、恋を織りなす二人の住むアイルランドの情景のなんと美しいこと。ノックグレンからダブリンまでの緑色のバスでの通学、蛇行する道路。度々登場する妖精が出てくるような森の中のコテージ。そして、主人公たちが通う、石造りの歴史ある学校、ジャックが立ち寄るアイルランドならではのバブ。長い歴史が育んだだろう景色と、思春期の揺れ動く主人公たちの心の微妙な心理がまるで調和のとれたハーモニーを奏でるかのように重なっていくのである。



### 『サークル・オブ・フレンズ』

(米・アイルランド/KUZUIエンタープライズ) Circle of Friends 1995年

監督=バット・オコナー

出演=クリス・オドネル、ミニー・ドライヴァー

ジェラルディン・オウラ

サフロン・パローズ、アラン・カミング

9月下旬より、東京・シネマスクエアとうきゅうにて上映